

# 前立腺がん 根治治療は2本柱で

## 倉敷成人病センター 新棟に設置



今年7月にオープンした倉敷成人病センターの新棟。倉敷市白庭町。

放射線によるがん治療で、前立腺がんは特に治療効果が高いがんの一つとされている。倉敷成人病センター（倉敷市白庭町）では、2月にオープンした新棟に、高度な放射線治療が可能な機器を備えた放射線治療センターを設置。同じ病棟内にきたロボット手術センターと一体化しての外科手術の2本柱で対応している。同病棟の放射線治療科と泌尿器科の医師に前立腺がん治療の取り組みについて聞いた。

「小林 隆一」



内視鏡手術ロボ  
最先端の技術で摘出

前立腺がんの治療では、がんが前立腺内にとどまり、腫瘍に広がっていない場合は、日本では根治治療として外科手術で前立腺を摘出することが多い。同病棟では、医師が主人公のテレビドラマにも登場した内視鏡手術支援ロボットの最新鋭モデル「ダヴィンチXi」を併用。腹部に数センチの穴をあけて胃をいれ、そこからロボットのアームの先端を体内に入らし、医師はコンソール内で立体的に拡大されたD画像を見ながらアームを操作して手術する。入院期間は一般に10日ほどだ。

一方根治治療として放射線治療も選択できる。同病棟では、X線による放射線治療装置「True Beam」を4月から導入。腫瘍の形状に合わせて照射（IMRT）したり、小さい腫瘍を変えて照射（SBRT）するなどの治療を行う。

高度放射線治療



倉敷成人病センターの泌尿器科・放射線治療科主任部長 山本康雄医師

同病棟の放射線治療科主任部長 矢原勝哉医師

患者は治療台で横になるだけで、痛みも少ない。同病棟では、IMRTでは、1回の治療時間は15〜20分だが、SBRT回数はこのと選択が難しいが、IMRTよりも少ない回数で済む。このため、仕事を休んでいる患者が必要になる。このため、仕事を休んでいる患者が必要になる。このため、仕事を休んでいる患者が必要になる。

## 進行度に合わせて選択肢さまざま

仕事と両立の患者も



回の治療時間は短い。前立腺がんは腫瘍が大きくなると、腫瘍を摘出するなどで手術は困難。しかし、前立腺がんの進行を促進する原因となる男性ホルモンを抑制するホルモン療法を併用することで、多くの場合は根治治療が可能。一方、がんが前立腺から周囲にはみだり出ている場合は、放射線治療とホルモン療法を組み合わせた治療も選択可能。高放射線治療は、高い放射線量が当たると、放射線治療は腫瘍の進行を抑制する効果がある。一方で、腫瘍の進行を抑制する効果がある。一方で、腫瘍の進行を抑制する効果がある。

矢原医師によると、放射線治療は、早期の前立腺がんの患者には、密着小線源治療も選択可能。ヨロイ2号を照射した小さな治療器を、知っていたら良かった。放射線治療は、早期の前立腺がんの患者には、密着小線源治療も選択可能。ヨロイ2号を照射した小さな治療器を、知っていたら良かった。放射線治療は、早期の前立腺がんの患者には、密着小線源治療も選択可能。ヨロイ2号を照射した小さな治療器を、知っていたら良かった。